

古文書を読む会学習記録

作成日 平成26年 9月27日

開催日	平成26年 9月25日	時 間	10:00~12:00
場 所	金沢公会堂	出席人数	11名
講 師	真田雅行氏	作成者	大門 利晴
テーマ	第2学習 江戸時代の絵島生嶋事件⑨		
概 要	<p>いよいよ、江嶋死体見分のため高遠へ、高遠藩の幕府への気遣いが続く。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 4月19日から24日まで江戸から高遠まで6日間の旅程連絡有2) 同日杉浦惣十郎に面談24日宿泊の件について打ち合わせ。 見分前日は木下（高遠近く）に宿をとり早朝高遠に着き、城下にて休憩。 高遠藩役人が見分所まで案内、見分後その日のうちに木下まで返す予定。3) 同19日老中より一人参上せよとの達しがあり、早速助太夫が参上、昨日の伺書（江嶋の衣類等は如何にすればよいか）に対する返事（見分後寺へ預けるように）を書類（御附札）で受け取った。4) 同19日、両検使へ原田惣左衛門を使いに出し「今度の高遠へ江嶋の死を見分に來られることご苦労様であり、何か御用があれば家来へ申付ける」よう伝えた。 この時贈物は受け取らなかった。5) 同19日杉浦・平林両検使が江戸出発。これに合わせ牛越太郎左衛門と茶菓子・酒を持って途中の板橋宿まで行き、6) 茶屋を1軒借り、兩名を接待。太郎左衛門を引き合わせ。高遠までの道中、一緒するので、遠慮なく何なりとも使ってほしいと申し入れ、またお尋ね事項については返答に手間取るため、尋事項の下書きを内々に渡してくれるようお願い、今晚宿泊予定の鴻巣宿より太郎左衛門に渡してもらえば、早々に高遠までそれを送るので効率よく対応できるであろう。7) 帰り際に持ってきた茶菓子・酒等は受け取らなかった…等々。 <p>そして</p> <ol style="list-style-type: none">8) 29日、検使が26日高遠を出発したとの飛脚が着いた。9) 絵島死体の見分が滞りなく済んだので、老中本多様へ口上書を届けた。<ul style="list-style-type: none">・絵島見分の杉浦・平林両検使が高遠に着き、25日滞りなく済んだ。・死骸については「勝手次第」のご指図であったので、高遠にある日蓮宗蓮花寺へ土葬した。・絵島の衣類等については先の指示の通り上記の寺へ遣わした。 <p>と、現地より報告があったとの内容である。</p> <p>万事粗相がないように気配りの慣例がもうこの寛保の時代（1789）にはできていたのか。今日の日本の組織社会の原型を見る思いがした。</p>		
次回予定	平成26年10月9日(木)10:00~12:00 於：金沢公会堂 第1学習 宿村 布川家文書⑩		